

行政自治会だより

第20号

■発行所／古河市行政自治会

事務局 TEL 0280-92-3113

■発行人／会長 湯本 豊

功労感謝の会が各地で開催されました

9月から11月にかけて古河市内各地にて、高齢者の皆さまのこれまでの功労を讃え、功労感謝の会が開催されています。

この会では、唄・踊り・楽器演奏などが披露され、皆さまと交流を深め、和やかな一日となりました。
(広報委員 松田 義章)



第11地区功労感謝の会 9月18日(月) コミュニティセンター総和



第20地区功労感謝の会
9月17日(日) 名崎小学校



第7地区功労感謝の会
9月18日(月) 古河福祉の森会館

第8回行政自治会親善バレーボール大会開催される

打てー！、ナイスレシーブ！、ヤッター、どんまいどんまい！等の歓声と笑いが飛び交うコート。プレーヤーは勿論応援している人達も一体となった楽しくも真剣なバレー大会が8月20日（日）に開催されました。実力拮抗した試合で、得失点差での決勝進出が相次いだ大会でした。

（広報委員 岩元俊二）



皆さんいきいきとプレーされていました

大会結果

部 門	ブロック	優秀賞
9人制 男子の部	A	上辺見行政区
	B	上大野行政区
9人制 女子の部	A	駒羽根住宅団地行政区
	B	大堤行政区
9人制 男女混合の部		雷電二丁目自治会
4人制 ソフトバレーボール フリーの部	A	諸川東松原行政区
	B	八幡町行政区B
	C	駒込行政区
	D	みどり野行政区
	E	仁連御辺行政区A
	F	諸川上町・中央町（合併）
4人制 ソフトバレーボール シルバーの部	A	上大野行政区

第8回行政自治会親善ソフトボール大会開催される

6月4日（日）、初夏の日差しとともに第8回古河市親善ソフトボール大会が開催され、市内グラウンドにて熱い戦いが繰り広げられました。それぞれのチームが親善の目的を踏まえ交流試合が楽しく行われました。勝ったチームも負けたチー

ムもいい汗が輝いて一日みんなの笑顔がたくさん見られました。

（広報委員 蜂須誠司）



熱い戦いが繰り広げられました

大会結果

※各ブロックの優秀賞のみ

チャレンジ部門 (男子) 参加35チーム	A 諸川西部行政区、B 下三自治会、 C 女沼行政区、D 上大野行政区、 E 小立野第二行政区、F 磯部行政区、 G 上辺見南町行政区、H 仁連御辺行政区、 I 関戸行政区、
チャレンジ部門 (女子) 参加3チーム	女沼行政区
エンジョイ部門 (男女混合) 参加39チーム	A 茶屋町自治会、B 旭自治会、 C 鍛冶町自治会、D 坂間町自治会、 E 松原町自治会、F 元原自治会、 G 表新町・裏新町自治会、H 駒羽根行政区、 I 雷電一丁目自治会、J 下山二丁目自治会

渡良瀬クリーン作戦を実施しました



皆様のご協力で河川敷がきれいになりました

8月5日（土）の花火大会は、今年も大勢の見物客を迎えて、夜空を大輪の華で綺麗に彩りました。

翌朝には堤防や河川敷に別の枯華が咲き乱れていました。早朝にもかかわらず、行政自治会を始め、各種団体2,844人の協力を得て、「渡良瀬クリーン作戦」が実施されました。ローラー作戦による清掃で約2.2トンのゴミが回収され、瞬く間に河川敷が綺麗な緑の華に彩られました。地域の力を実感しました。

ボランティアの方々お疲れさまでした。

（広報委員 熊木津佐雄）

地区紹介（第18回）～第20地区～

1. 名崎の由来

「名崎」の由来は、明治22年の町村制施行により尾崎村・江口村・恩名村・長左衛門新田・水口新田・尾崎新田・成田新田が合併して結城郡名崎村が誕生しました（成田新田は直後に現八千代町に編入、長左衛門新田・水口新田・尾崎新田は合併と同時に間中橋と改称）。恩名の「名」と尾崎の「崎」をとって「名崎」と命名したとの事です。

その後、昭和30年猿島郡幸島村・八俣村と合併して猿島郡三和（みわ）村に、そして昭和44年町制施行により三和（さんわ）町に、さらに平成17年古河市・総和町との合併により新「古河市」となりました。

また、古河市では、自治組織を地区割制に旧古河市・旧三和町は小学校区で、旧総和町は消防団区とし、当の名崎小学校区は、第20地区となりました。

7月31日現在総人口9,195人3,646世帯、行政区は15行政区で構成しています。

2. 名崎の今と昔の縁（えにし）

（歴史的出現 まさに名崎へのペリー来航）

名崎では、歴史的に見て大企業進出があり、教育・文化・経済など、何よりも衣食住、職業選択など、まさにペリー来航の如くのカルチャーショックを受け、恩恵を受けると同時にあこがれと希望を抱き、向上心を多くの皆さんが抱いたものです。

その一つが、昭和27年日本電信電話株式会社（現NTT）から国際電信電話株式会社（現KDDI）に移行して本格的国際放送復活、職員増員に伴い社宅ができて多くの社員が移り住み、また地元民の新規採用、小中学校などでも転校生あるいは新入学など人材の交流も増大・増進し、新しい息吹を戴き様々な情報と広い世界を体感しました。

二つ目は、KDD進出から、60数年を経て、本年日野自動車株式会社が世界一の最新の生産設備を完成、全面操業開始をしました。

私たちは、KDD同様に、日野自動車に対して大きな期待を持ち、日野自動車の発展とともにこ

の名崎が共存共栄、安心・安全・住みよい町になることを願っています。

第20地区区長会と日野自動車は、ともに積極的に交流会・情報交換会を通じて親交を深めているところです。また、様々なかたちでご支援とご協力をいただいています。私たち名崎住民は、KDD進出の時と同様に、子供たちに未来志向の向上心とグローバルな先見性をもった、世界に貢献する人材が輩出することを期待しています。

3. 区長会の活動

名崎地区は久しく団結力のある地域といわれ、当区長会も連携良く「安心・安全な町づくり」を基本に活動をしています。主たるものが

- ①古河市との連携、相互協力
- ②各行政区の連携と交流促進
- ③コミュニティ活動の積極支援
- ④第20地区自主防災訓練（名の崎会と共催）
- ⑤功労感謝の会（敬老会）開催（併せて金婚夫婦表彰）
- ⑥その他

また、古河市消防団第25・26・27分団連合が、平成28年度茨城県消防ポンプ操法競技大会県西地区大会（10月）において見事優勝を果たしました。このことは、選手を含め全消防団員が5月から週3日、自分の仕事を持ちながら練習に応援に熱心に取り組んだ成果です。また、区長会も大会当日を含め節目節目に積極的に支援・応援しました。何より消防団員の皆様及びご家族の皆様に対しまして、常日頃の消防・防災活動に衷心より感謝を申し上げます。

4. まとめ

第20地区（名崎地区）は、古河市の一地区として遅れることなく、むしろ一歩前への精神で共に発展することを期待するものです。

（第20地区 地区長 染野 則夫）

第20地区 区域



ポンプ操法県西大会において見事優勝を果たしました

市内歴史散歩（第18回） 一雀神社の創建と由緒一

参宮道路の突き当たりに雀の森が見える。ここ町の西北端に鎮座するのが、「雀神社」です。神社入り口の左右には、御神木とされている千古の老大欏がそびえ立っています。一方の大欏は、天然記念物で市指定文化財「雀神社の大欏」で、樹齢八百年、2本の欏が癒着合体しており、夫婦欏と呼ばれています。昭和55年3月に罹災したため、平成8年8月に樹勢回復治療を実施し、枯損部を切除して防腐処理が施されました。

雀神社の由緒は、第10代崇神天皇の皇子豊城入彦命が東国鎮定の際（約2,000年前）、祈願を籠め、ここに神社を創建したとの説と、第56代清和天皇の御代、貞観年間（約1,100年前）出雲大社より勧請したとの説があります。

旧く社名を「鎮宮」と称えしを、後世訛って「雀宮」となったということです。

御祭神は、大己貴命（大国主命）、少彦名命（医薬の神）、事代主命（えびす神）の三柱をお祀りしています。

社名の起源については、『古河志』、『加茂家歴代』、『雀宮本地十一面観音畧縁起』などで、転訛説、地名説、勧請説とありますが、いずれも確かな根拠はなく、依然として古文書等の神社に伝来するものはありません。

それは雀神社にとって不幸な時期がありました。古河公方時代の社殿が火災で焼失したことや、神主が文禄の役、関ヶ原合戦に従軍し二代にわたって戦死し、しばらく神主不在の時があったことがあり、後に「四・五百年來紛散相継キタル

二依り、多ク紛失二歸シタルモノ見工、現存スル重ナルモノ八数点二過ギズ」とあり、本当のことは分かりません。

江戸時代には、雀宮とか雀大明神と書かれ、明治以降は、雀神社（猿島郡唯一の郷社）となっていますが、常に市民一般には「お雀さま」の愛称で親しまれてきました。

ともかく、お雀さまは、古河を統治した歴代領主には崇敬される存在であり、五代公方足利義氏の母（芳春院）が奉納した弘治2（1556）年の鰐口があったこと、義氏の娘の氏女が市内駒ヶ崎の地を寄進して祭礼を毎年のごとく続けること、松平康長の息女が元和9（1623）年に信州松本から「かね釣灯笼」を寄進した事実があります。

慶長10（1605）年、と時の古河城主松平康長が、流造の本殿と拝殿、幣殿を造営していました。本殿の軒を飾る木鼻、実肘木、海老虹梁といった組物に施された唐草の装飾文様の線形や、拝殿の大きく面を取った角柱、舟底形の天井などに桃山期の力強い気風のうかがえる古建築（市指定文化財）で、県内屈指の社殿です。

春の祭礼は太々神楽、夏の大祭では雀の神が城下巡視のため、本社を出て二丁目の仮宮にいる間は、大名といえどもその神前を通ることを許さず「祭礼道」と呼んだ特別の道を用意して敬神の意を表したのは、今は昔の夢物語となってしまいましたが、奉納される「天下泰平」「国土安穩」の万燈、「ササラ」等が、祭りの伝統を守り続けています。

（北新町自治会 田嶋幸男）



厳粛なたたずまいをみせる雀神社社殿



行政自治会広報委員会

委員長 梅津信男
委員 蜂須誠司 長濱弘道 熊木津佐雄
吉葉英雄 松田義章 岩元俊二
二宮 誠 黒木ヒサ子

編集後記

「敬老の日」を祝う行事の一環として、功労感謝の会が、今年も各地区・行政区及び自治会で開催されております。功労感謝の会は、高齢者がいきいきと暮らしていける地域づくりの推進と地域の活性化を目的として実施し、今年度70歳以上になられる敬老対象者と地域住民が一堂に会して交流する事業です。団塊の世代が対象者に加わってきており、増加傾向にあります。今後ますますのご健康とお多幸をお祈りする次第です。
（広報委員長 梅津信男）